

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年	1	選択
担当教員			
萩原 豪			
B（経営学科）	S（専門科目）	CM（商学）	201（中級科目）

授業のねらい（概要）	観光に主眼をおいたまちづくりをしていく中では、地域商品の開発ということは重要な位置を占めている。そのためには地域社会の中にある特産品や歴史文化などの地域資源に着目をする必要がある。まず、地域資源について基礎知識を習得した後、地域資源発見のためのワークショップを実施する。そして、これを基にした商品の開発のためのワークショップを進めていき、実際の商品開発について検討していく。検討した商品開発企画は学外における発表機会などの活用を目指す。
授業計画	第1回 【遠隔】ガイダンス（授業の運営方法説明） 予習（時間）：シラバスの確認および授業テーマについて情報収集。（30） 復習（時間）：配付資料の見直し。（30） 第2回 【遠隔】地域資源とは何か？ 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（30） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（30） 第3回 【遠隔】群馬県の特産品・歴史文化再考 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（30） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（30） 第4回 【遠隔】群馬県の地域資源（1） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（30） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（30） 第5回 【課題】群馬県の地域資源（2） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（30） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（30） 第6回 地域資源発見ワークショップ（1） 予習（時間）：グループワークの準備。（30） 復習（時間）：ワークショップのまとめ。（30） 第7回 地域資源発見ワークショップ（2） 予習（時間）：グループワークの準備。（30） 復習（時間）：ワークショップのまとめ。（30） 第8回 地域資源発見ワークショップ（3） 予習（時間）：グループワークの準備。（30） 復習（時間）：ワークショップのまとめ。（30） 第9回 【課題】地域資源発見ワークショップ（4） 予習（時間）：グループワークの準備。（30） 復習（時間）：ワークショップのまとめ。（30） 第10回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークの準備。（30） 復習（時間）：フィールドワークのまとめ。（30） 第11回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークの準備。（30） 復習（時間）：フィールドワークのまとめ。（30） 第12回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークの準備。（30） 復習（時間）：フィールドワークのまとめ。（30） 第13回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークの準備。（30） 復習（時間）：フィールドワークのまとめ。（30） 第14回 【課題】地域商品発表報告会 予習（時間）：報告会の準備。（30） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（30） 第15回 総括（ふりかえり） 予習（時間）：これまでの配付資料やノートなどの見直し。（30） 復習（時間）：最終レポートの作成準備。（30）
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	DP（商学部）の3項目を意識した科目となっている。 2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢 3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力 4. 大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢 DP（経営学科）の①項目を意識した科目となっている。 2. 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を多面的に理解し、活用できる能力 【身に付くスキル】 協働力・創造的思考力
到達目標	(1) 地域社会にどのような資源があるのかを発見することができる。 (2) 地域資源から商品を開発するまでのプロセスを体験し、その内容を理解できる。 (3) 地域振興と自分自身が身近に関係していることを理解し、地域社会の一員として活動することができる。 (4) グループワークなどの協働作業を通じて、問題発見・認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極

	性や責任感の醸成することができる。 (5) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得することができる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	リアクションペーパーや課題等については全体的な注意点などを授業内で解説する。
履修上の注意	(1) この授業は一方的な講義形式だけではなく、受講生同士の対話の時間を積極的に持つワークショップ形式の授業を展開していく。授業を通じて気づいたことを、第三者と話すという行動を通じて自らが考え・学ぶというスタイルのため、日常的に新聞・テレビ・インターネットを通じた情報収集をするなど、主体的・能動的な姿勢が求められる。 (2) 授業の一環として調査活動（フィールドワーク）を、2回実施する（土曜ないし日曜）。日程については現在調整中のため、確定次第、授業内で指示を出す。交通費などフィールドワークにかかる費用は実費自己負担とする。1回は東京の各都道府県アンテナショップめぐりを実施する。東京までの旅費（片道1,980円）は自己負担とする。この調査活動は授業時間として充当する。その後、各自が補助的に実施する調査活動については予習・復習の時間内の活動として扱う。 (3) フィールドワークには大学内および大学近郊での農業体験が含まれる。 (4) 「観光まちづくり基礎」を並行して受講することが望ましい。 (5) 進捗状況によって授業内容を組み替える可能性もある。
成績評価の方法・基準	期末試験は行わず、中間レポート（800～1,200字程度）および最終レポート（1,200～2,000字程度）の提出を求める。また毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求める。評価基準は学修意欲：40%、中間レポート：20%、最終レポート：40%、で総合的に判断する。 〔注意〕 中間レポートおよび最終レポートの提出がない場合は評価対象外とする。
教科書	
参考書・教材	【参考書】 参考文献については授業中に適宜紹介していく。これ以外の参考文献として、書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・ウェブサイトなど、身の回りにある情報源から関連する事柄を幅広く取り上げていく。紹介する事例によっては、ビデオやDVDなども用いる。また必要に応じて、参考資料を配付する。
備考	演習科目 2020年度は5、9、14回を課題研究として学修する。 第5回では、これまでの授業の内容を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第4回の授業で指示を出す。全体で150分の学修を想定している。 第9回では、これまでの授業の内容（特に第6回～第8回）を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第8回の授業で指示を出す。全体で150分の学修を想定している。 第14回では、これまでの授業の内容（特に第10回～第13回）を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第8回の授業で指示を出す。全体で150分の学修を想定している。 「成績評価の方法・基準」欄にある「中間レポート」は、ここで示す課題研究のレポートを充当する。実施方法の詳細については、第1回で概要を説明する。
教員との連絡方法	基本的にメールを用いる。授業用アドレスは授業内で告知する。